

キリスト教は、歴史を生きたイエス・キリストという人格に出発点を持ちます。イエスという名をもった一人の歴史上の人格が存在しなければ、キリスト教も教会も存在しなかったと言ってよいでしょう。この歴史的な人格が、神の御子であり、わたしたち人間の救い主キリストであると宣べ伝えられることによって、キリスト教信仰は歴史の中で継承されることとなります。

キリスト教信仰の継承の担い手になったのが、教会です。新約聖書の最古の口頭伝承と言われるコリントの信徒への手紙(一)15章3節には、「最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に書いてあるとおりにわたしたちの罪のために死んだこと、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに三日目に復活したこと、ケファに現れ、その後十二人に現れたことです・・・」と書かれています。

ここには、キリスト教の信仰の中核にあるものは何か、教会とはそもそも何かが暗示されています。キリスト教信仰の中核にあるのは、歴史のイエスの偉業や教えではなくて、イエスの死と復活、顕現であり、この方がわたしたちのキリストであったことが示されています。

キリストは、わたしたちのために (pro nobis) 死んで、葬られ、復活し、一度はキリストを否み、キリストを信じる人々を迫害した「使徒と呼ばれる値打ちのない者」(9節)を恵みによって、信仰者さらに伝道者としてたててくださったと書かれています。

教会は、十字架での贖罪の死の後、葬られ、陰府にくんだり、復活し、天に挙げられた神の子イエス・キリストの恵みのゆえにたてられました。つまり、教会は、歴史のイエスの人格を伝達するとともに、歴史のイエスが神の御子キリストであったことを伝える、神によって建てられた共同体です。

ですから、キリスト教信仰と教会は、出発点から不可分です。教会のないキリスト教は存在しません。もちろん、教会とは切り離されたキリスト教思想やキリスト教と聖書の学問的な研究は可能ですが、わたしたち教会に集う者は、聖書を勉強して、キリスト教的な思想や生き方、文化を学び知るものではありません。教会で、生ける神を礼拝し、キリストによって罪の赦しをいただき、聖霊のちからに押し出されて新しい生活へと導かれます。

前回学んだことですが、わたしたちは、聖書を通してのみ、キリストがどのような方か(キリストの人格)とキリストが何をなしてくださったか(キリストのわざ)を知ることができます。聖書以外には、キリストを知る道はないというのが、わたしたちのプロテスタント教会の大原則となってきました。なぜなら、聖書のみが、神の靈感によって書かれ、そのすべてが父なる神と御子イエス・キリストそして聖霊なる三位一体の神について証言しているからです。

教会は、三位一体の神を証言し続ける限り、価値あるものとなります。教会の真正性は、その歴史の長さや教会の富や大きさには一切ありません。二人または三人がキリストの名によって集まるところにキリストがいてくださいます(マタイ18:20)。教会が真正であるかどうかは、説教によってみ言葉が純粹に宣べ伝えられ、イエス・キリストの定めてくださった聖礼典によって天に挙げられた復活の主が指し示されているかにかかっています。

使徒と呼ばれる値打ちのないペテロをはじめとする弟子たちに恵みが与えられ、そこからキリストの人格とわざを宣教する歴史が始まった出来事は、教会そのものが神の恵みと憐みによってしか成り立ちえない共同体であることを意味しています。キリスト教信仰も教会も等しく、神の恵みと憐みによって成り立ちます。